

【成果情報名】 多様な用途に対応した 8 種類の鉢サイズによる花壇苗生産

【要約】 大きさの異なる 8 種類の鉢生産をすることで多様なニーズへの対応が可能となる。

特に今後需要増加が見込まれる飾花利用や寄せ鉢ニーズなど多用途に対応する場合は、2 号鉢～2.5 号鉢が適し、生産原価は 3 号鉢に比較して約 3～5 割減となる。

【担当】 山梨県総合農業技術センター・岳麓試験地・渡辺 淳

【分類】 技術・普及

【課題の要請元】 富士・東部農務事務所

【背景・ねらい】

花き産業は、個人消費の低迷等により非常に厳しい状況で、本県の花き生産も同様である。今後は、従来通りの生産・販売形態だけではなく、市場のニーズに合った生産や新たな品目や販路を開拓していく必要がある。そこで、消費者ニーズに対応した大きさの異なる花壇苗の生産を行い、それぞれの生産性、消費性について評価する。

【成果の内容・特徴】

1. 生産規格を増やすことで多様なニーズに対応することが可能となる。特に、2 号、2 号 L、2.5 号鉢は、新規性の高い大規模花壇やギャザリングなどから従来の需要に幅広く対応することが可能となる。一方、3.5 号 L などの大鉢は、限定的であるが飾花よりも鉢花として単鉢で鑑賞するニーズに対応する（表 1）。
2. 小鉢生産は、生産コスト面で削減効果が高い。3 号鉢と比較して 2 号鉢で約 5 割、2.5 号鉢で約 3 割減少する。一方、3.5 号 L では生産コストが約 2 倍以上となる（表 2）。
3. 1 m²当たりの生産量では、2 号鉢では 3 号鉢に比較して約 2.2 倍近く生産量が増加するため、既存ハウス内で生産する場合は同一面積で生産量を増やすことが可能となる。一方、3.5 号 L では約 3 割減少する。さらに、出荷までの仕上がり日数は、小鉢ほど早いいため施設の利用率が高くなる（表 2）。
4. 花壇苗を、年間通じて夏期（6 月～10 月）、冬期（11 月～5 月）の 2 期にかけて花壇、プランターなどで利用する場合、緩効性肥料を利用することで従来の生育途中で追肥することなく長期間鑑賞が可能であるとともに、追肥労力が削減される（表 3）。

【成果の活用上の留意点】

1. 生産時の施肥量については、生産場所、生育時の気温や灌水量等によって調節する。また、利用場面においても調整する。
2. 多種類の生産に関しては、販売先など具体的な出荷先、出荷目的を想定して生産を行う。
3. 生産コストの算出は、令和 4 年 12 月時点のものである。
4. 当試験は、サルビア、マリゴールド、ジニア、パチュア、ペゴニアセンパ、インパチェンス、ペンタス、ビンカ、パンジー、ビオラ、ハボタン等合計 15 品目 30 品種で試験を行った。

【期待される効果】

1. 多様なニーズに対応した鉢花を生産することで、新たなニーズの掘り起こしが可能となり、消費拡大につながれば経営の安定化を図ることが可能となる。

[具体的データ]



2号 2号L 2.5号 2.5号L 3号 3号L 3.5号 3.5号L
図1 大きさの異なる8種類の鉢の大きさ比較

表1 各鉢サイズの利用場面を想定した評価

鉢サイズ	新規性・消費拡大分野				既存使用分野					メリット	デメリット
	大規模花壇	定植作業分/百鉢	ギャザリング ^{a)}	30cm寄鉢植付可能数	公園	庭・小花壇	寄鉢プランター	単鉢観賞	花育		
2	◎	12	◎	19	◎	◎	◎	◎	◎	・定植作業大幅軽減 ・種類を多く使える	・公園等に利用する場合は、株がやや小さいため定植直後見劣感がある
2L	◎	12	◎	16	◎	◎	◎	◎	◎	・定植作業大幅軽減 ・種類を多く使える	・公園等に利用する場合は、株がやや小さいため定植直後見劣感がある
2.5	◎	12	△	12	◎	◎	◎	◎	◎~○	・定植作業大幅軽減 ・種類を多く使える	・特になし
2.5L	○	16	△~▲	10	◎	◎	○	○	○	・従来のサイズより使いやすく定植後の生育も優れる	・ロングタイになっている分多少植えやすさがある
3	△	40	×	8	基準	基準	基準	△	△	基準	基準
3L	▲	60	×	6	△	△	△	△	▲	・購入時の見た目のボリューム感あり	・定植利用に向かない
3.5	△~▲	50	×	6	△	△	△	△	▲	・購入時の見た目のボリューム感あり	・植え付け場所を選ぶ
3.5L	×	60	×	4	×	×	×	◎	▲	・購入時の見た目のボリューム感あり	・定植利用に向かない

評価 ◎広範囲に利用がありかなりおすすめ ○おすすめ △通常利用か同程度 ▲限定的な利用に限られる ×おすすめできない

a) ギャザリング 通常の寄せ植えと違い、植えて直ぐの時点からフラワーアレンジメントのように一体感のある見た目に仕上げる植え方

表2 大きさの異なる鉢で生産した場合の鉢毎の評価

鉢サイズ	1鉢80% 充填容積 cc	生産コスト ^{a)}		施設占有 ^{b)}		1鉢重 3号鉢 対比%	出荷までの 仕上がり	生産上のメリット	生産上のデメリット
		3号対比 %	1㎡生産量 対比 %						
2	90	◎	47.1	◎	279 226.4	40	早い	・生産経費の大幅な減少 ・単位面積当たり生産量増	・灌水回数の増加による労力負担
2L	130	○	75.6	◎	279 226.4	51	早い	・生産経費の大幅な減少 ・単位面積当たり生産量増	・灌水回数の増加による労力負担
2.5	170	○	69.9	◎~○	177 143.6	58	やや早い	・生産経費の減少 ・3号鉢と遜色のない仕上がり	・灌水負担やや増
2.5L	220	△	107	○	177 143.6	82	同程度	・生産経費の減少 ・3号鉢と遜色のない仕上がり	・育苗時水やり負担は3号と同程度
3	280	-	100	-	123 100.0	100	基準	基準	基準
3L	500	▲	198	△	123 100.0	143	同程度	・3号鉢と遜色のない仕上がり	・生産経費の増加
3.5	480	▲	163	▲~△	90 73.3	138	やや早い 遅い	・3号鉢と並ぶ市場に於ける主な出荷規格 ・3号鉢より仕上がりにボリューム感	・生産経費の増加
3.5L	690	▲▲	279	▲~△	90 73.3	217	遅い	・仕上げ鉢出荷が可能	・生産経費の大幅増加 ・重い

a) 生産コストは山土主体用土+ポット代+肥料代の合計 評価は3号鉢にくらべ◎かなり安い○安い△同等▲やや高い▲▲かなり高い

b) 1㎡に置ける最大鉢数で通路等は考慮せず

表3 追肥を行わずに長期間鑑賞のための施肥管理方法

用途	施肥量	資材	施用方法
単鉢生産	鉢当たり1~2g	ロングトータル花き1号70日タイプ	上部置肥
大型プランター	用土50%あたり100g	ロングトータル花き1号100日タイプ	上部置肥、用土混用
飾花・花壇	N-P205-K20=25kg-25kg-25kg	化成8号、lp70、LPS100、塩加カリ、過リン酸石灰、タイニー、微量要素	マルチ内一発施肥

[その他]

研究課題名：花壇苗の新たなニーズに対応した生産技術の確立

予算区分：県単 研究期間：2020~2022年度 研究者名：渡辺 淳、馬場久美子